

北海道合鴨水稲会

# 水かき通信<sup>特</sup>別号

## 北海道合鴨水稲会 第二回総会 報告

2月12日から13日にかけて、月形町の“花工房”において、北海道合鴨水稲会の第二回総会と研修会が行われました。参加者は、既存会員と入会希望者をあわせて27名となりました。

前半の研修会では、専修短期大学の工藤正義教授による講演“中国の農業事情”が行なわれました。そのなかで、中国では食料問題に直面している状況において、食料危機は自国で解決するという姿勢を持っていることと、さらに今後、野菜の輸出にも一層の力を入れるという将来展望を持っていることを聞き、あらためて中国の大きさと、それに対して日本のポリシーの無さを感じました。皆さんは如何だったでしょうか。

研修会後は、事例報告が行なわれました。昨年初めて取り組んだ東川の荒さんが苦心談や、アイガモの食べ方の工夫などが発表されました。さらに、北竜町の川本さんと滝川畜試家禽科の大原さんから全国大会宮崎大会の報告も行なわれ、

他府県から見た北海道米のイメージや、全国のアイガモ農法の展望など興味深い話を聞く事が出来ました。

その後、折坂さんの進行により、質疑応答が行なわれました。これから始めようとする人や、会員外で昨年実施された方から、ヒナの育成についての基本的な質問が出されるなど、すでに取り組んでいる経験者にとっても改めて参考になる報告会となりました。

その後、休憩を挟んで第2回総会が行われました。

今年度の建議事項として、

1. 全国との連携を深めるための全国大会参加に対する助成
2. 全道に広がる組織の世話人に対する費用の弁償
3. 事務費および事務局手当

以上、大きく3点について提案されました。話し合いの結果、会費の値上げによってさらに充実した活動を行ないたいという世話人会の意向を理解して頂き、今年

度より年会費を5000円とすることになりました。

尚、会員の意見として、全国大会への参加については、各地区より偏り無く、誰でも参加出来るようにとの希望があったことをつけ加えておきます。

(総会に参加されなかった方は、総会の資料を同封致しましたので、詳しくはそちらを参照して下さい。)

引き続き、世話人の選出が行なわれました。設立時より頑張ってきた道北地区の佐竹さんが勇退され、後記のように決まりましたので、報告いたします。

総会後は、皆さん待ちに待った懇親会になりました。温泉に浸かった後、会員より提供されたアイガモ、ドブロクなどに舌鼓を打ち、二次会も深夜まで盛り上がり、用意された大量の酒類もみるみるうちにそれぞれの胃袋へ消えて行きました。

翌日は、前日の事例報告の中で聞けなかった事、言いたい事を中心に昼までフリーな話の時間を設定したところ、ガラゲーエイジの携帯電牧の紹介から始まり、外敵防止策、ヒナの飼育、お客の見つけ方、米の販売、貯蔵まで大変バラエティに富み、かつ参考になる話が出来ました。参加者全員、名残を惜しみながらそれぞれの心の中にエネルギーを充分蓄え、夏の現地視察会での再会を約束して解散となりました。

二日間終えての印象としては、昨年と比べて会員数が大きく増えたとは言えませんが、興味のある人や、会には入ってはいないが既に実践されている方などにも参加して頂いた事は一つの前進だと思います。

消費者ニーズというより、地球環境ニーズと生産者の身体と心の健康ニーズとしての合鴨水稲同時作を進めていきたいと思えます。そして、少人数で悩んだり、初歩的な失敗を繰り返すよりも、お互いに、情報を交換しながら一步步前進して行きたいと思っています。

それにしても、皆さんよく飲み、しゃべるし、元気ですね。

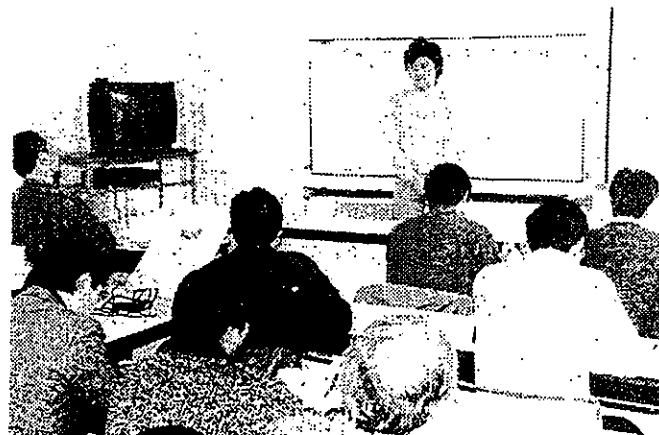
1996、97年度の役職は以下のとおりです。(任期2年 1996年度より改正)

- 代表世話人 浅野 晃彦氏 (農業・旭川)
- 道南地区 (渡島、檜山、石狩、後志) 世話人 大塚 功氏 (農業・仁木) 築城 正行氏 (農業・七飯)
- 道央地区 (空知、日高、胆振) 世話人 今橋 道夫氏 (農業・美唄) 折坂 義一氏 (農業・浦臼)
- 道北地区 (上川、留萌、あと全て) 世話人 浅野 晃彦氏 (農業・旭川) 太田 順夫氏 (農業・中富良野)
- 事務局 酒井 徹 (北海道大学大学院)
- 顧問 三島 徳三氏 (北海道大学農学部教授)

(今回は、事務局の酒井が総会に参加できなかったため、総会報告の原稿を浅野さんにお願しました。)

# はばたけ/アイガモ農法

## 月形町で研修会



研修会でアイガモ農法の事例を発表する農家

# 被害対策など情報交換 座布団利用や料理法も紹介

【月形水田にアイガモを放し除草を省力化して、農薬を使わない米作りに取り組んでいる北海道合鴨水稲会は十二、十三の両日、空知管内の月形町のはな工房に道内の農家や研究者、普及員など約三十人を集めて研修会を開いた。

アイガモ農法は水稲栽培や活動成果の発表、情報の交換、会報「水かき通信」の発行などを通じ、アイガモの特別栽培米の生産と飼育を経営に役立たせる自然農法。道内では五年前から取り組みが始められて、一昨年に同水稲会が発足し、現在会員二十五人となっている。

活動としては現地視察会によるほ場見学、全国合鴨水稲大会への参加、研修会

足が生ずると指摘。国営農場を中心に大型の土地改良用トラウなど、機械の研究と実験に日本の技術協力を受けて食糧の増産に力を入れていることなど、スライドを使って報告した。

この後、会員の荒芳治さん(東川町)と川本隆幸さん(北竜町)がアイガモ農法の取り組みについて事例発表。また滝川畜産試験場の大原隆生家畜科長から、昨年宮崎県で開かれた全国合鴨水稲宮崎大会の参加報告も行われた。

情報交換では会員のアイガモの羽毛で作った座布団の紹介やアイガモのおいしい料理の作り方、トビやキツネの被害防止策などについて意見交換が活発に行われた。

同水稲会の浅野晃彦代表は「農業に対して確固たる信念を持ってやるべきだ。水稲とアイガモが共存する農業の息を、仲間らと共に通して身に付けていきたい」と話していた。

## 会費の支払方法の変更について

これまでの会費の支払方法は、以下の口座に振り込んでいただくというものでした。

郵便貯金 普通 19090-33485691  
北海道合鴨水稻会 事務局 酒井 徹

既に払い込まれた方は、こちらで受け取っています。

このたび、郵便振替口座を開設しましたので、今後、会費は以下の口座に振り込んで下さい。（同封の払込書を用いると、会員が手数料を支払う必要がありません。）

口座番号 : 02700-3-38241  
加入者名 : 北海道合鴨水稻会  
払込払出局 : 札幌北七条郵便局

払込みの期限を3月末までとしていたにも関わらず、事務局の都合により、機関紙の発行と支払い方法のお知らせが遅れてしまったことをお詫びいたします。

払い込みの期限は4月末までとさせていただきますので、ご協力お願い致します。

北海道合鴨水稻会 水かき通信 特別号  
1996年4月12日発行

発行：北海道合鴨水稻会

発行所：北海道合鴨水稻会事務局

〒060 札幌市 北区 北9条 西9丁目

北海道大学農学部

農業経済学科 農業市場学講座

酒井 徹

TEL : 011-716-2111 (内線3880)

FAX : 011-736-8633

